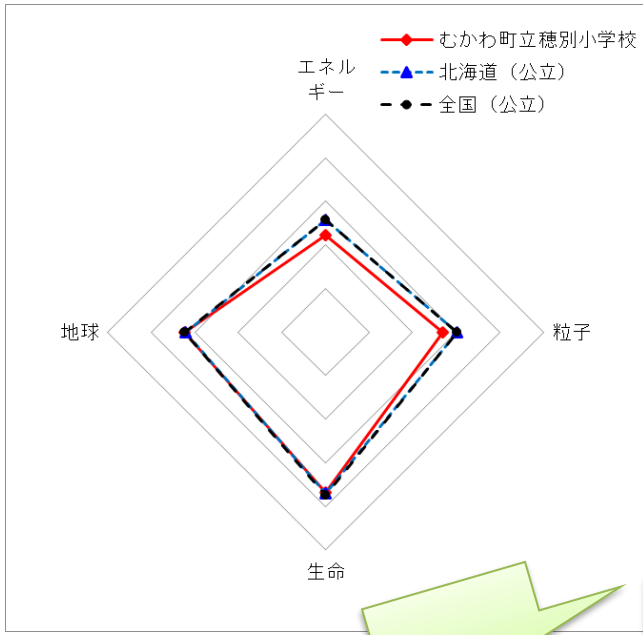


【理科】 全国平均正答率より「やや低い」結果となりました。



【成果】

- 領域別の正答率は、「生命」及び「地球」領域の正答率が全国平均とほぼ同程度の結果となりました。
- 昆虫に関する問題や、水が水蒸気として空気中に含まれていることを問う問題は全国平均を約10ポイント上回っており、身の回りの自然現象に関心をもち、学習に生かしている様子がうかがえました。



調査問題2 (3)

つくった水よう液で、次のような実験をしました。

【方法】

①水、砂糖水、食塩水をそれぞれ、試験管に同じ量入れる。

②水、砂糖水、食塩水を冷やすための物をつくる。

③冷やすための物に、①を入れて冷やす。ときどき、試験管をとり出し、温度どうようを観察する。

実験の【結果】、水、砂糖水、食塩水の「こおり始めた温度」と「すべてこおった温度」は、下のようになりました。

【結果】 (水、砂糖水、食塩水を冷やした温度)		
	こおり始めた温度	すべてこおった温度
水	0℃	0℃
砂糖水	-1℃	-1℃
食塩水	-6℃	-8℃

(3) はるとさんは、実験したあと、【問題】、【予想】を確認しました。

【問題】
 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いだろうか。

【予想】 (はるとさんの予想)
 砂糖水や食塩水は、こおるのが水の部分だから、水がすべてこおる温度と同じ0℃で、すべてこおると思う。

この【結果】からは、わたしの【予想】がらがっていることがわかったよ。【結果】の(ア)ということから考え直すと、【問題】に対するまとめは、(イ)といえるね。

はるとさん

はるとさんのことばの(ア)の中にあてはまるものを、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、(イ)の中にあてはまるものを、下の5から8までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

(ア)

- ① 水は0℃、砂糖水は-1℃、食塩水は-8℃ですべてこおった
- ② 水、砂糖水、食塩水は、冷やすとすべてこおった
- ③ すべてこおるまでの時間は、砂糖水より食塩水が長かった
- ④ 水、砂糖水、食塩水は、0℃のときにすべてこおった

(イ)

- ⑤ 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度と同じである
- ⑥ 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低い
- ⑦ 食塩水がすべてこおる温度は、砂糖水がすべてこおる温度より低い
- ⑧ 食塩水だけが、水がすべてこおる温度より低い温度ですべてこおる

【最も課題の見られた問題】

▲上の、「自分の予想と実験や観察の結果をもとに、問題に対するまとめを検討して、自分の考えをもつ」問題の正答率は、全国平均より約32ポイント低い結果でした。(ア)では多くの児童が正解の「1」を選ぶことができていましたが、(イ)で正解の「6」ではなく、食塩水と砂糖水のこおる温度を比べており【問題】(赤線部)に対するまとめとはいえない「7」を選んだ児童が多くいました。これは、**問題に対する適切なまとめを考えることができなかつたことが原因**として考えられます。

【児童質問紙】 全国平均値と比較した、本校児童の傾向は次のとおりです。

〔生活習慣・学習習慣・規範意識等〕

- 朝食を毎日食べている児童が約93%と、とても多いことが分かりました。
- 学校の授業以外に、平日、1日1時間以上勉強している児童が約86%と、とても多いことが分かりました。
- 全員が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答しました。
- ▲半数の児童が、平日に4時間以上もゲームをしていることが分かりました。
- ▲家庭での読書時間、家にある本の冊数の項目が全国平均を大きく下回り、昨年に続き、読書習慣の定着に大きな課題が見られました。



〔学習意欲・学習方法〕

- 全員が、「国語・算数・理科の勉強は大切だと思う」と回答しました。
- 昨年度までの授業で、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」割合が、全国平均を上回りました。
- ▲昨年度までの授業におけるタブレット端末の使用機会が全国平均を大きく下回り、大きな課題が見られました。
- ▲昨年度までの授業で、「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」割合が全国平均を下回り、課題が見られました。



「教科」及び「児童質問紙」の調査から浮かび上がった課題を踏まえ、学校として、次ページのような取組の充実を図っていきます。

○課題を踏まえた日常の授業改善に取り組みます。

- 国語では、日常の授業において音読や黙読を積極的に行い、文章を速く、正確に読む力の向上を図ります。
- 算数では、問題の場面を図にして考える活動を意図的に設定し思考力の向上を図るとともに、繰り返しの学習で、基礎・基本の着実な定着を図ります。
- 理科では、問題把握→予想・仮説→観察・実験→結果→考察→結論の学びのプロセスを大切にしながら授業を展開します。
- 調べ学習や学習内容のまとめ、子どもたちの意見交流、学習の振り返りなどさまざまな学習活動でタブレット端末を活用し、児童一人一人が自分の考えをまとめる活動を行っていきます。
- 朝学習や補充学習を中心としたeライブラリアドバンスの活用や、長期休業中や学級閉鎖時のタブレット持ち帰りなどでもタブレット端末を活用し、子ども一人一人の学習意欲や進度に沿った学習を行っていきます。



タブレットを使った学習

○生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立を図る取組の充実を図ります。

- 学校だよりや保健だより等で、生活習慣の改善に向けた啓発を続けます。
- からだスマイルチャレンジの取組を通して、家庭での生活習慣を見直す機会とします。
- 各学年の家庭学習の目標や取組内容について、教職員で改めて確認し、系統性のある指導を行っていきます。
- 家庭学習強化週間の取組を穂別中学校と連携して行い、家庭学習の質・量（学年×10分+10分）の定着を図ります。
- 穂別図書館やひまわりの会と連携して、本に親しむ機会を増やします。
- 読書をする機会を意図的に設け、学校及び家庭での読書習慣の確立に努めます。



朝の読み聞かせ



全国学力・学習状況調査の結果は、あくまで学力や学習状況、生活状況の一面をとらえたものです。しかしながら、調査結果から明らかとなった現状・課題を真摯に受け止め、「6年生の学力」ではなく「穂別小学校の学力」として捉え、穂別の子どもたちのために、学校として改善できることを継続して行っています。

学年の総まとめとなる3学期が始まりました。ご家庭でも、家庭での読書習慣の確立や、ゲームやスマートフォン等の使い方に関するルール作りやその徹底など、児童の生活習慣を改善できるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。